

【併願可】 オンライン入学試験 (1期・2期)

オンライン入学試験は、総合型選抜1期、2期において、**芸術学部 芸術学科 舞台芸術領域、芸術教養領域**および**教育学部 子ども学科**の志願者のみを対象として、オンライン(Web面接ツール)で個人面接を実施する入学試験です。(来学不要)

オンライン環境が整っていればご自宅でも所属学校でも、オンライン個人面接を受けていただく場所は問いませんが、いずれも個室(受験者おひとりしかいない部屋・室)かつ静かな環境であることが求められます。所属学校でオンライン面接を受験する場合、必ず受験者本人が所属学校の先生の許可を得てください。

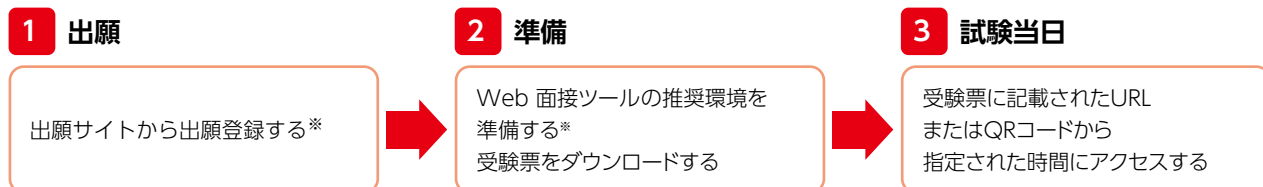
この方式は、個人面接のほか、企画書または事前課題型小論文と主体的な活動歴を評価するプラスα加点での評価を行います。

企画書または事前課題型小論文は、学科・領域ごとに指定された課題を、出願書類とともに提出していただきます。

募集学部・学科・領域

芸術学部 芸術学科
舞台芸術領域
芸術教養領域
教育学部 子ども学科

オンライン入学試験のながれ



※ Web 面接ツールの推奨環境については、本学 Web ページをご確認ください。

出願資格

下記の1～3のいずれかを満たす者

1. 日本国内における高等学校(中等教育学校後期課程、特別支援学校高等部を含む)を卒業した者、または2026年3月卒業見込みの者
2. 日本国内における通常の課程による12年の学校教育を修了した者、または2026年3月修了見込みの者
3. 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる次の各号の1つに該当する者、または2026年3月31日までにこれに該当する見込みの者
 - (1) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者および2026年3月31日までに修了見込みの者、またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
 - (2) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者、または2026年3月31日までに修了見込みの者
 - (3) 専修学校の高等課程(修了年限が3年以上であること。その他文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者、または2026年3月31日までに修了見込みの者
 - (4) 文部科学大臣が指定した者
 - (5) 文部科学大臣が行う高等学校卒業程度認定試験または大学入学資格検定試験に合格した者、および2026年3月31日までに合格見込みの者で、2026年3月31日までに18歳に達するもの
 - (6) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、2026年3月31日までに18歳に達するもの

※ (6) で出願しようとする者は、出願開始の1か月前までに本学広報部学生募集チーム(TEL:0568-24-0318)まで電話でご連絡ください。

出願書類

- ①出願確認票 ②調査書 ③大学入学志望理由書(様式1-1) ④活動報告書(任意提出) ⑤企画書または事前課題型小論文

〈プラスα加点を希望する場合〉

高校3年次に至るまでの志望する学科・領域・コースの各分野に関する成長の経緯を見て取ることができる主体的な活動履歴や受賞歴、資格・検定等があり、かつ「プラスα(最大50点)」の加点を希望する場合は、併せて「活動報告書」(本学所定様式)にて提出してください。最大50点を加点します。
(※詳しくは「プラスα加点について」をご覧ください)

選抜方法

芸術学部 芸術学科 舞台芸術領域

〈1期・2期〉

コース	選抜方法①		選抜方法②		選抜方法③
全コース	舞台芸術に関する企画書(200点)	+	本学面接担当者によるオンライン個人面接 ^{※1・2} (約10分・100点)	+	プラスα加点 (最大50点)

※1 個人面接において、カメラ付きの端末(PC又はスマートフォン)とインターネット接続環境が必要となります。(Web面接ツールはブラウザ型システムのためアプリのダウンロード不要)

※2 調査書を参考資料とする。

●舞台芸術に関する企画書(事前提出)

次の課題内容について、市販の400字づめ原稿用紙にまとめ、出願時に提出する。(出願書類に同封すること)

【課題】

〈1期〉

文部科学省と気象庁が2025年3月に発表した「日本の気候変動2025 大気と陸・海洋に関する観測・予測評価報告書」によれば、今後ますます地球温暖化が進み、その結果、気温の上昇などの気候変動が続く予測が立てられている。

このような背景に鑑み、あなただったら環境問題をテーマとした舞台芸術を創出する場合、どのような企画を立案しますか。環境問題に対して問題提起ができるようなアイデアをフォーマット①～⑧に基づき作成しなさい。

※参考にした文献資料・新聞記事・サイトがある場合は、出典を最後に記載してください。

【舞台芸術企画書フォーマット】

- ①企画タイトル(10～20字程度)
- ②企画の目的・背景(200～300字程度)
- ③コンセプト(100～200字程度)
- ④公演の概要(400～600字程度)
- ⑤実施場所・対象・時期(200～300字程度)
- ⑥独自性・意義(200～300字程度)
- ⑦実施に向けた課題と対応(150～300字程度)
- ⑧まとめ(100～150字程度)

〈2期〉

情報リテラシーとは、情報を適切に収集、理解し、それらを有効に活用する能力のことである。情報リテラシーを正しく備えることによって、自分に必要な正しい情報を得ることができ、また、得た情報を他者に伝えることができる。しかしながら、現代社会では、全ての人々に情報リテラシーが備わっているとは言い難い。例えば風評被害の拡散やSNSでの個人情報漏洩などは、情報リテラシー不足のために起きてしまった事例である。

このような背景に鑑み、あなただったら情報リテラシー教育をテーマとした舞台芸術を創出する場合、どのような企画を立案しますか。情報リテラシー教育に対して問題提起ができるようなアイデアをフォーマット①～⑧に基づき作成しなさい。

※参考にした文献資料・新聞記事・サイトがある場合は出典を最後に記載してください。

【舞台芸術企画書フォーマット】

- ①企画タイトル(10～20字程度)
- ②企画の目的・背景(200～300字程度)
- ③コンセプト(100～200字程度)
- ④公演の概要(400～600字程度)
- ⑤実施場所・対象・時期(200～300字程度)
- ⑥独自性・意義(200～300字程度)
- ⑦実施に向けた課題と対応(150～300字程度)
- ⑧まとめ(100～150字程度)

芸術学部 芸術学科 芸術教養領域

〈1期・2期〉

コース	選抜方法①		選抜方法②		選抜方法③
リベラルアーツコース	事前課題型小論文(200点)	+	本学面接担当者によるオンライン個人面接 ^{※1・2} (約10分・100点)	+	プラスα加点 (最大50点)

※1 個人面接において、カメラ付きの端末(PC又はスマートフォン)とインターネット接続環境が必要となります。(Web面接ツールはブラウザ型システムのためアプリのダウンロード不要)

※2 調査書を参考資料とする。

●事前課題型小論文

次の課題内容について、市販の400字づめ原稿用紙2枚程度にまとめ、出願時に提出する。(出願書類に同封すること)

【課題】

〈1期・2期共通〉

現代社会には絵画、彫刻、音楽、マンガ、映画、演劇など多数の分野の芸術作品があります。芸術の表現形態や作品について、本領域のアドミッションポリシーもふまえ、次の設問に回答してください。

- 1) あなた自身がこれからの社会で重要だと考える表現形態もしくは具体的な作品のうち、最も関心があるもの一つについて、その内容および、それが重要だと考える理由を説明してください(300字程度)。
- 2) 1) で説明した表現形態もしくは作品について、2名以上(家族、友人など)とディスカッションし、そのディスカッションの内容を文章でまとめてください(450字程度)。
- 3) 上記の2名以上の人々について、個人が特定されない範囲で、どのような人か簡単に説明してください。(50字程度)。

教育学部 子ども学科

〈1期・2期〉

コース	選抜方法①		選抜方法②		選抜方法③
全コース	事前課題型小論文(200点)	+	本学面接担当者によるオンライン個人面接 ^{*1・2} (約10分・100点)	+	プラスα加点 (最大50点)

※1 個人面接において、カメラ付きの端末(PC又はスマートフォン)とインターネット接続環境が必要となります。(Web面接ツールはブラウザ型システムのためアプリのダウンロード不要)

※2 調査書を参考資料とする。

●事前課題型小論文

次の課題内容について、市販の400字づめ原稿用紙2枚程度にまとめ、出願時に提出する。(出願書類に同封すること)

【課題】

〈1期・2期共通〉

子どもは、家庭や保育所、幼稚園、小学校など、さまざまな環境に身を置きながら、仲間や友達と共に、学習や遊び、日々の生活を通して育ちます。家庭や保育所、幼稚園、小学校、それ以外の立場から子どもの保育・教育に関わる大人のいずれも、子どもの育ちを支え、成長や発達を促していくという点は変わりありません。そして、教員や保育者は、集団や仲間・友達関係における関わりあう力を育てつつ、子ども一人一人の望ましい育ちを促します。

そこで、子どもに関わる大人の一人として、子ども同士の友達関係における関わりあいを豊かにするには、どのように子どもと接すればよいと考えますか。教員・保育者・ボランティアスタッフとしてなど、自分の立場を想定し、明確に示したうえで、自身の経験や知識などを踏まえ、考えを述べなさい。